CG-WL54AG シリーズ

詳細設定ガイド

5.2GHz を屋外で使用することは電波法により禁止されています。
IEEE802.11a は屋外で使用することはできませんのでご注意ください。

PN Y613-03148-02 Rev.D

添付マニュアルの紹介

本製品には、次のマニュアルが添付されています。
本製品の各マニュアルをよくお読みになり、本製品を正しくお使いください。

●はじめにお読みください（付属：紙マニュアル）

安全にお使いいただくためのご注意や、添付品の内容、各部の名称と機能、サポートに関する情報などを説明しています。
本製品をお使いになる前に必ずお読みになり、正しくお使いください。

●クイック設定ガイド（付属：紙マニュアル）

本製品のユーティリティソフトのインストールについて説明しています。本製品の導入時にお読みください。

●詳細設定ガイド(ユーティリティディスク収録：PDF マニュアル・本書)

セキュリティ設定など、本製品の詳細な機能説明や設定方法などを説明しています。

●トラブル解決 Q&A(ユーティリティディスク収録：PDF マニュアル)

本製品のトラブルシューティングについて説明しています。必要に応じてご覧ください。

はじめに

このたびは、「CG-WLCB54AG」「CG-WLPCI54AG」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本書は本製品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでも参照していただけるように、大切に保管してください。

コレガ製品に関する最新情報（ファームウェアのバージョンアップ情報など）は、弊社のホームページでお知らせいたします。

http://www.corega.co.jp/

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

注意	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本製品	「CG-WLCB54AG」または「 CG-WLPCI54AG」を指します。
「 」－「 」－「 」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

●正式名称について

本書で使用しているソフトウェア名の正式名称は以下のとおりです。

- Windows® の正式名称は、Microsoft® Windows® Operating System です。
- Windows® XP は、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft® Windows® XP Professional operating system の略です。
- Windows® 2000 は、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system の略です。
- Windows® Me は、Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system の略です。
- Windows® 98SE は、Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system の略です。

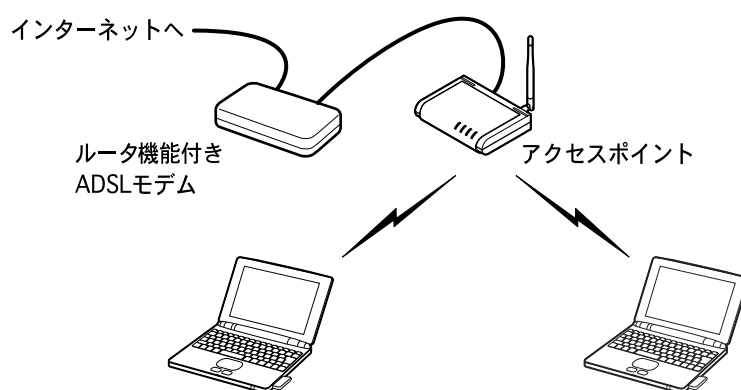
目　次

接続方法を決めよう

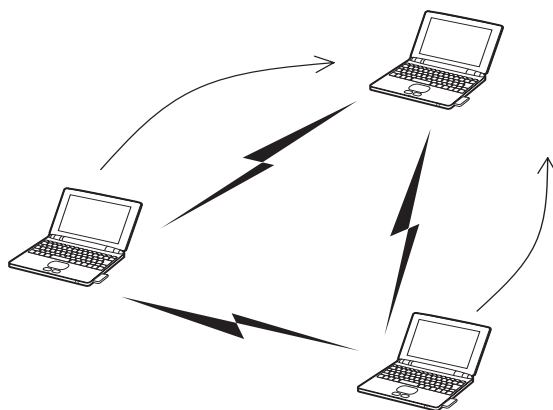
本製品は、IEEE802.11a 規格、IEEE802.11g 規格、IEEE802.11b 規格に対応したワイヤレス（無線 LAN）通信アダプタです。IEEE802.11a 規格、IEEE802.11g 規格、IEEE802.11b 規格に対応した無線ルータ、無線アクセスポイントと組み合わせることで、無線ネットワークを構築することができます。また、同じ規格の無線アダプタ間の通信をすることもできます。以下の例を参考にして本製品とパソコンの接続方法を決めてください。

本製品は、各社の無線LAN機器との間で相互接続性を確保していますが、個別製品の接続可否については、お使いの機器の製造・販売元にお問い合わせください。また、コレガのホームページでは、本製品との接続が確認された動作検証表を随時公開してゆきますので、あわせてご覧ください。

■アクセスポイントを使ってインターネットに接続する〜 Infrastructure

「インターネット接続を複数台のパソコンで共有したい」「ケーブルなしでインターネットに接続したいといった場合には、次の図のようにアクセスポイントを使ってインターネット接続をします。このときには「Infrastructure」モードにします。また、既にケーブルを使ってネットワークが構築されている環境に、無線 LAN を追加するときなどもこのモードにします。工場出荷時の設定ではこのモードになっております。

アクセスポイントは、別途ご購入いただく必要があります。

■パソコン同士でファイルのやりとりをするだけなら〜 Ad-Hoc

「離れた場所にあるパソコン同士でファイル交換ができればいい」という場合には、アクセスポイントは不要です。次のように無線LANアダプタを搭載したパソコン同士で直接通信をします。このときには「Ad-Hoc」モードにします。設定方法については、PART2の「無線LANの設定をしよう」「Ad-Hocモードで使うときは…」（P.14）をご覧ください。

■無線LANのセキュリティ対策について

無線LANでは電波を使って通信を行うため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入されたりする恐れがあります。このようなことがないように、次のようなセキュリティ機能を用意しています。設定を行いたい場合は、PART2の「無線LANの設定をしよう」「セキュリティ設定をしよう」（P.17）をご覧ください。

・通信グループ化をする
　　ESSIDを設定する

・通信内容を暗号化する
　　WEP（暗号キー）を設定する
　　WPA(高度な暗号キー）を設定する

本製品の工場出荷時の設定は、右表のとおりです。

項目	出荷時設定
ESSID	corega
アクセス制限	なし
チャンネル	Auto
認証方式	Open System

本製品を使わないときは…

■本製品をパソコンから取り外す

本製品をパソコンから取り外す場合は、以下の手順で取り外してください。正しい手順で取り外さないとパソコンが正常に動作しなくなることがあります。

・本製品を取り外す前に、ご使用のパソコンがネットワークに接続していないこと、また、他のパソコンからアクセスされていないことを確認してください。
・以下の操作を行うと、実際に本製品を取り外さなくてもデバイスの使用を停止したとみなされ、本製品は使用できなくなります。再度使用するときは、一度本製品を取り外してから再び取り付けてください。

● CG-WLCB54AG の場合

1　画面左下のタスクトレイ（通知領域）上の または、 をクリックし、「CG-WLCB54AG を安全に取り外します」をクリックします。（ご使用の OS により、下線部の表示は、中止や停止するという意味の内容になります。）

2　安全に取り外せる旨のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

3　パソコンのイジェクトボタンを押し、本製品を PC カードスロットから取り外します。

以上で取り外しの手順は終了です。
再度使用する場合は、そのまま PC カードスロットに取り付けると使用できます。

● CG-WLPCI54AG の場合

1　起動中のソフトウェアを全て終了して、パソコンおよび周辺機器の電源を切ります。

2　パソコンの電源プラグをコンセントから抜きます。

3　パソコンの取扱説明書をご覧になり、本体カバーを取り外し、本製品を PCI バススロットから取り外してください。

4　パソコンの本体カバーを元通りに取り付けます。

以上で取り外しの手順は終了です。

■ソフトウェアを削除するには

本製品用のソフトウェアをパソコンから削除する方法を説明します。

1 「本製品をパソコンから取り外す」の手順をご覧になり、パソコンから本製品を取り外します。

2 「スタート」ボタンー「プログラム」ー「corega WL54AG Series」ー「無線 LAN モニタの削除」の順にクリックします。
「ファイルの削除の確認」が表示されます。

3 「OK」をクリックします。
ソフトウェアの削除が行われ、しばらくすると「InstallSheld Wizard の完了」が表示されます。

4 「完了」をクリックします。

これでソフトウェアの削除は終了です。

ネットワークの設定をする

無線LANでデータをやりとりしたり、インターネットに接続したりするには、ネットワークの設定が必要です。

■インターネットに接続するとき

本製品を接続したパソコンでインターネットに接続するにはTCP/IPの設定が必要です。次の手順で設定を確認してください。

● Windows XP の場合

設定を変更するには「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザ名でログオンしてください。

1 「スタート」－「コントロールパネル」をクリックします。

2 「コントロールパネル」にある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

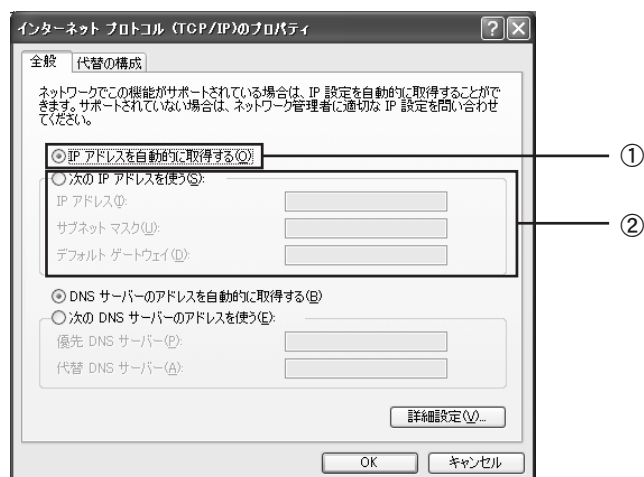
3 「ネットワーク接続」アイコンをクリックします。

4 「ワイヤレスネットワーク接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。

5 「全般」タブで「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっているか確認します。

6 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

※画面はCG-WLCB54AGの場合です

7 「全般」タブを選択し、次のように設定します。

①DHCP サーバ機能を持ったルータなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IP アドレスを自動的に取得する」を選択します。通常はこちらを選択します。

②DHCP サーバ機能を使用しない場合や、特定の IP アドレスを割り当てる必要がある場合は、「次の IP アドレスを使う」を選択して、使用する IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。

※お使いの環境によってはこの他ネットワークの設定をする必要があります。詳しくはネットワーク管理者にお問い合わせください。

8 「OK」ボタンをクリックします。

9 「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」画面で、「OK」ボタンをクリックします。

10 再起動を促すメッセージが表示された場合は、再起動します。
メッセージが表示されなかった場合も、手動で再起動してください。

インターネットに接続するにはルータなどの設定も必要です。各機器のマニュアルをご覧になり、設定を行ってください。

● Windows 2000 の場合

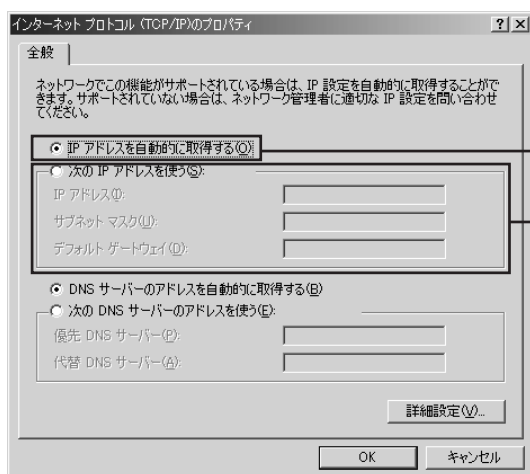
設定を変更するには「Administrator」または Administrators グループのユーザ名でログオンしてください。

1 「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。
※「ローカルエリア接続」の名称はご使用のパソコンの環境によって異なる場合があります。

3 「インターネットプロトコル（TCP/IP)」が有効になっていることを確認します。

4 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

5 次のようにIPアドレスの設定をします。

①DHCPサーバ機能を持ったルータなどを使ってインターネットに接続する場合は､「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。通常はこちらを選択します。

②DHCPサーバ機能を使用しない場合や、特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、「次のIPアドレスを使う」を選択して、使用するIPアドレスとサブネットマスクを入力してください。

※お使いの環境によってはこの他ネットワークの設定をする必要があります｡詳しくはネットワーク管理者にお問い合わせください。

6 「OK」ボタンをクリックします。

7 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の「OK」ボタンをクリックします。

8 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

インターネットに接続するにはルータなどの設定も必要です。各機器のマニュアルをご覧になり、設定を行ってください。

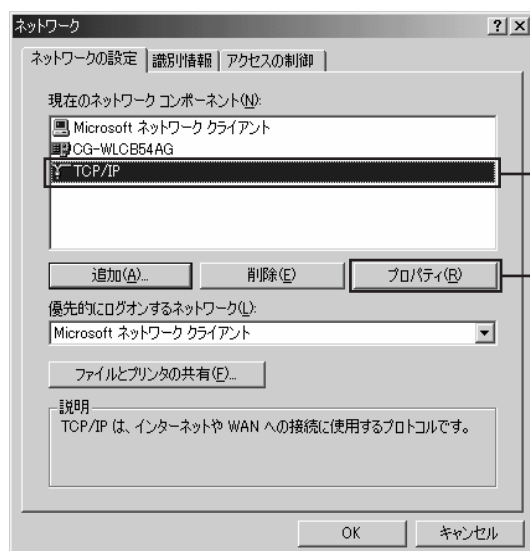
● Windows Me/98SEの場合

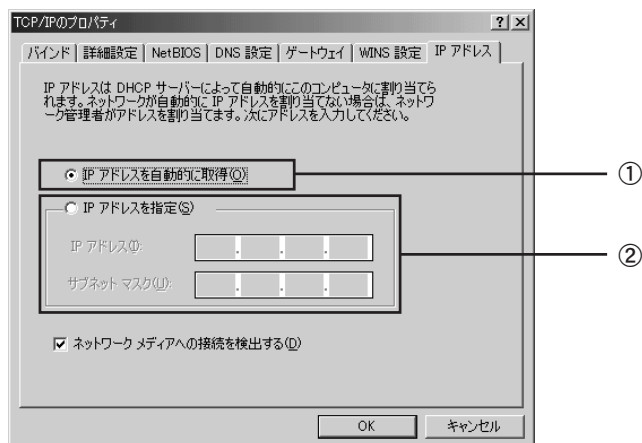
ここでは例としてWindows Meを使用しています。Windows 98SEをご使用の場合も手順は同様です。

1 「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。

2 「コントロールパネル」にある「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

3 「ネットワークの設定」タブ内で「現在のネットワークコンポーネント」の欄に「TCP/IP－＞CG-WLCB54AG」または「TCP/IP －＞CG-WLPCI54AG」が表示されていることを確認します。

4 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP －＞CG-WLCB54AG」または「TCP/IP －＞CG-WLPCI54AG」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。

※画面はCG-WLCB54AGの場合です

5 「IP アドレス」タブで、次のように設定をします。

①DHCPサーバ機能を持ったルータなどを使ってインターネットに接続する場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。通常はこちらを選択します。

②DHCP サーバ機能を使用しない場合や、特定の IP アドレスを割り当てる必要がある場合は、「次の IP アドレスを使う」を選択して、使用する IP アドレスとサブネットマスクを入力してください。

※お使いの環境によってはこの他ネットワークの設定をする必要があります。詳しくはネットワーク管理者にお問い合わせください。

6 「OK」ボタンをクリックします。

7 「ネットワーク」画面の「OK」ボタンをクリックします。

■パソコンとモデムを本製品に接続する

使用するネットワーク環境に応じて、次のような設定を行ってください。設定方法について詳しくは、Windows のマニュアルやヘルプ、または市販のネットワーク解説書をご覧ください。企業などで利用する場合は、ネットワーク管理者に設定内容を確認してください。

・必要なサービスやプロトコルを追加、有効にする
・「コンピュータ」名と「ワークグループ」名を設定する。
・フォルダやプリンタの共有設定をする

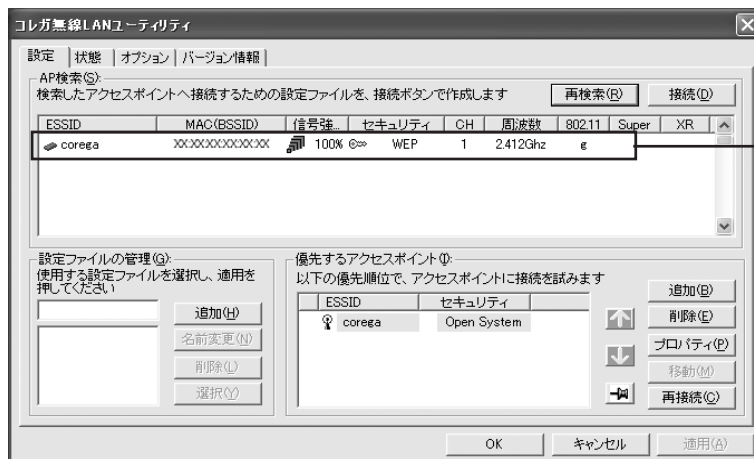
これで無線LANを使って他のパソコンとファイルのやりとりをしたり、インターネットへ接続したりできるようになります。

「Ad-Hoc モード」で使うときは…

画面右下の をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。

■「Ad-Hoc モード」を利用したネットワークに接続する場合

1　通信可能な ESSID（ネットワーク）が表示されます。

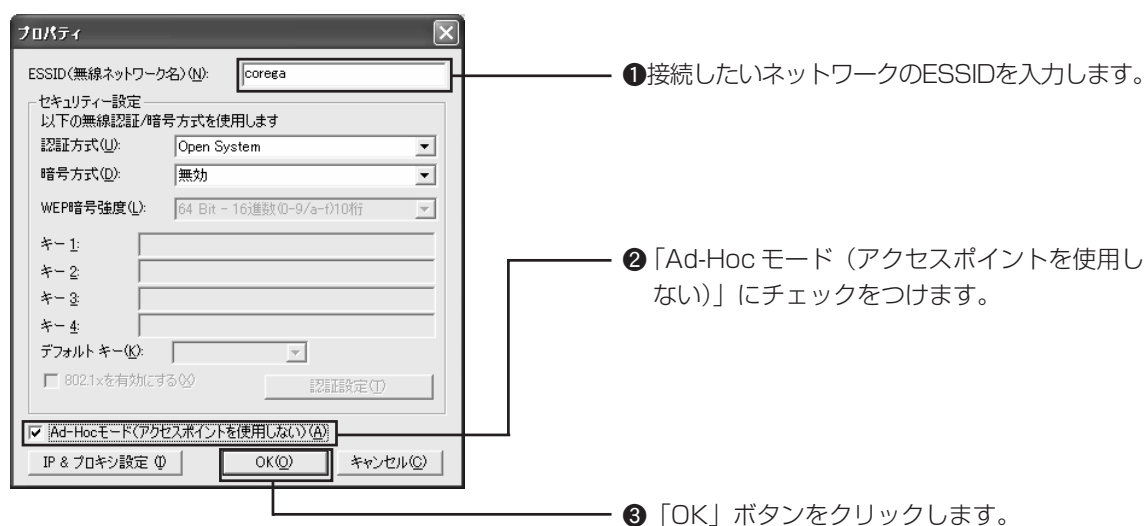
2　「Ad-Hoc モード」の無線ネットワークは で表示されます（ は infrastructure モードの無線ネットワークを表します）。

3　「Ad-Hoc モード」の設定は必要ありません。「OK」ボタンをクリックします。

4　手順２の画面に戻り、「適用」ボタンをクリックして設定を反映させます。

セキュリティの設定を行う場合は「セキュリティ設定をしよう」（P.17）をご覧ください。

■新規で「Ad-Hoc モード」のネットワークを構築する場合

1　通信可能な ESSID（ネットワーク）が表示されます。「追加」をクリックします。

2　次の手順で「Ad-Hoc モード」の設定を行います。

3　手順 1 の画面右下の「適用」ボタンをクリックして設定を反映させます。

これで「Ad-Hoc モード」のネットワークの構築が完了しました。セキュリティの設定を行う場合は「セキュリティ設定をしよう」（P.17）をご覧ください。

無線 LAN のセキュリティについて

無線LANではデータの通信に電波を利用しているため、電波が届く範囲であれば、通信内容を傍受されたり、不正侵入される恐れがあります。本製品では、これらの対策として次のようなセキュリティ機能を搭載しています。

■本製品で設定できるセキュリティ機能

● ESSID(Extended Service Set IDentifier)

無線LANに接続する機器を識別する名前です。SSIDと呼ばれることもあります。同じESSIDを持つ無線LAN機器同士でしか通信できないため、独自のESSIDを設定することにより、外部から不正侵入される危険が減少します。設定方法については、このPARTの「ESSIDを設定する」(P.17)をご覧ください。

● WEP(Wired Equivalent Privacy)

通信内容を暗号化し、通信内容の傍受を防ぐセキュリティ機能です。仮に通信データを傍受された場合でも、通信内容の復元を容易に行うことができなくなります。64Bit、128Bit、152Bitの3種類から任意で暗号キーを作成します。設定方法については、このPARTの「WEPを設定する」(P.18）をご覧ください。

● WPA(Wi-Fi Protected Access)

通信内容を設定した暗号キーを使って暗号化するセキュリティ機能の一つです。暗号キーは一定時間ごとに変わるTKIPを採用しており、WEPよりも解読されにくくなります。家庭でご利用できる「WPA－PSK（Personal)」と企業内でご利用できる「WPA－EAP（Enterprise)」の2種類の設定ができます。設定方法については、このPARTの「WPAを設定する」(P.19）をご覧ください。

● 802.1x 認証

無線ネットワークを確立する際に、認証サービスを受けるセキュリティ設定です。正しい認証キーでアクセスすると認証サーバが正規のユーザであることを承認し、通信が可能になります。企業内のネットワークで利用されます。設定方法については、このPARTの「RADIUSサーバを使う場合」(P.21)をご覧ください。

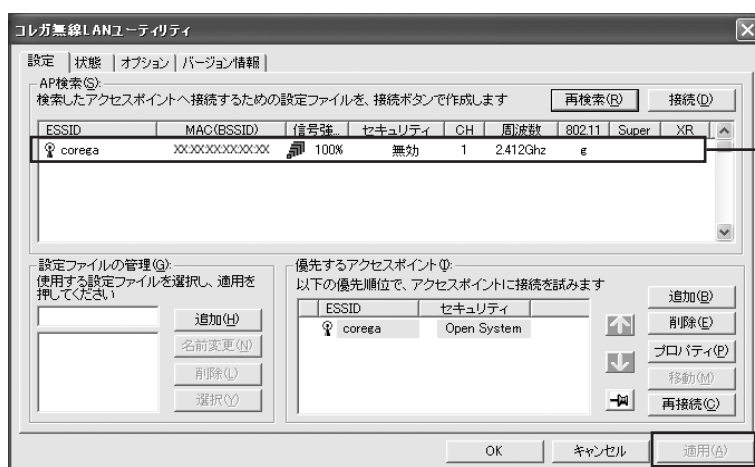
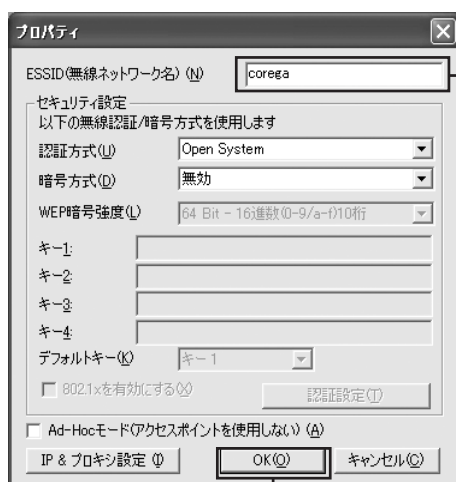
セキュリティ設定は、通信相手機器に合わせて同じ内容の設定を行ってください。

セキュリティ設定をしよう

■ESSIDを設定する

画面右下の をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。
通信可能なESSID（ネットワーク）を自動的に表示します。

注意 アクセスポイントにESSIDを検索されないような機能（ステルスAP）が有効になっている場合はESSIDが空欄で表示されます。

1　接続したいESSID（ネットワーク）をダブルクリックします。

2　「プロパティ」画面が表示されますので、新しく設定するESSIDの値を入力し、「OK」ボタンをクリックします。

3　手順1の「設定」画面に戻り、右下の「適用」ボタンをクリックして設定を反映させます。

■ WEP を設定する

1　画面右下の をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。

2 「設定」画面（P.17）が表示され、通信可能なESSID（ネットワーク）が自動的に表示されます。

注意

アクセスポイントにESSIDを検索されないような機能（ステルスAP）が有効になっている場合はESSIDが空欄で表示されます。

3　設定したいネットワークをダブルクリックします。

4 「プロパティ」画面が表示されますので、WEPの設定をします。

①「Shared Key」を選択します。
②「64Bit」「128Bit」「152Bit」の中から選択します。
③ 16進数の任意の暗号キーを直接入力します。
　・64Bit　：16進数（0～9、a～f）　半角10桁
　・128Bit：16進数（0～9、a～f）　半角26桁
　・152Bit：16進数（0～9、a～f）　半角32桁
④初回アクセスに使う暗号キーをKey1～4の中から選択します。

注意

デフォルトキーはアクセスポイントと同じデフォルトキーを設定してください。

4 「OK」をクリックします。

5 「設定」画面に戻り、右下の「適用」ボタンをクリックして設定を反映します。

■WPA を設定する

●家で使う場合

1 画面右下の をダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。

2 「設定」画面（P.17）が表示され、通信可能なESSID（ネットワーク）が自動的に表示されます。

> 注意　アクセスポイントにESSIDを検索されないような機能（ステルスAP）が有効になっている場合はESSIDが表示されません。

3 設定したいESSIDの値をダブルクリックします。

4 「プロパティ」画面が表示されますので、次のように設定をします。

① 認証方式で「WPA－PSK(パーソナル)」を選択します

② 暗号方式で「TKIP」または「AES」を選択します

③ 「認証設定」ボタンをクリックします

※RADIUSサーバを持たない小規模なネットワーク構築の場合は任意の共有キーを入力して設定します。

5 「OK」をクリックします。

6 「設定」画面に戻り、右下の「適用」ボタンをクリックして設定を反映させます。

●企業で使う場合

1 画面右下のをダブルクリックし、本製品のユーティリティを起動します。
2 「設定」画面（P.17）が表示され、通信可能なESSID（ネットワーク）を自動的に表示します。

注意 アクセスポイントにESSIDを検索されないような機能（ステルスAP）が有効になっている場合はESSIDが表示されません。

3 設定したいESSIDの値をダブルクリックします。
4 「プロパティ」画面が表示されますので、次のように設定をします。

① 認証方式で「WPA－EAP(エンタープライズ)」を選択します。
② 暗号方式で「TKIP」または「AES」を選択します。
③ 認証設定をしたい場合は「認証設定」ボタンをクリックします（詳しくは「RADIUSサーバを使う場合」（P.21）をご覧ください)。

5 「OK」をクリックします。
6 「設定」画面に戻り、右下の「適用」ボタンをクリックして設定を反映させます。

● RADIUS サーバを使う場合

RADIUSサーバを持つ大規模なネットワークではお使いのネットワークに合わせた設定が必要です。ご使用の環境によって設定が異なりますので、個々のサービスの担当者にお問い合わせください。

ユーザ証明書はあらかじめダウンロードするなど、入手しておく必要があります。

ここでは「EAP – TLS」の設定をする場合の説明をします。

「設定」画面に戻り、右下の「適用」ボタンをクリックして設定を反映させます。

弊社ではWindows 2000 Server インターネット認証サービス(IAS)で動作を確認しております。

本製品で設定できるWEPおよびWPA設定は以下のとおりです。

● WEP…Infrastructure/Ad-Hoc共通

認証方式	暗号方式	WEP暗号強度
Open System	無効	－
	WEP	64Bit－16進数（0～9/a～f）10桁 128Bit－16進数（0～9/a～f）26桁 152Bit－16進数（0～9/a～f）32桁
Shared Key	WEP	64Bit－16進数（0～9/a～f）10桁 128Bit－16進数（0～9/a～f）26桁 152Bit－16進数（0～9/a～f）32桁

※ Open System…アクセスポイントに認証キーを通信させないで接続します。
※ Shared Key……アクセスポイントに認証キーを通信させて接続します。

● WPA…Infrastructureの場合

認証方式	暗号方式	認証設定
WPA－EAP (エンタープライズ)	TKIP	EAP－TLS LEAP EAP－TTLS PEAP
	AES	EAP－TLS LEAP EAP－TTLS PEAP
WPA－PSK （Personal）	TKIP	共有キー
	AES	共有キー

「設定」画面

画面右下のタスクトレイ（通知領域）にある をダブルクリックしてユーティリティを起動してください。

「設定」タブをクリックします。

項目名	説明
① AP 検索	利用可能な無線ネットワークのリストが表示されます。 … Super A/Gが有効になっているアクセスポイントに表示されるマークです。 … eXtended Range が有効になっているアクセスポイントに表示されるマークです。
②再検索	クリックすると利用可能な無線ネットワークの検索を開始します。
③接続	クリックするとネットワークにアクセスを始めます。セキュリティー設定がされている場合は、同じ設定をしておく必要があります。
④設定ファイルの管理	個々の無線の設定した内容を設定ファイルに保存することができます。保存できるファイルの数はお使いのパソコンによって違います。
⑤優先するアクセスポイント	「AP検索」で表示された無線ネットワークをクリックすると表示され、優先的に接続できるようにします。 最大で 100 件の表示をすることができます。
⑥追加	無線のネットワークを新たに設定する場合クリックします。
⑦削除	「優先するアクセスポイント」で表示された無線ネットワークを削除します。

項目名	説明
⑧プロパティ	「優先するアクセスポイント」で選択した無線ネットワークのセキュリティ設定をすることができます。(P.17)
⑪移動	「設定ファイルの管理」に登録されているファイル間でアクセスポイントを移動させることができます。
⑩再接続	接続が途切れたアクセスポイントを再接続させます。
⑪固定	クリックすると「優先するアクセスポイント」のリストの中にESSID(ネットワーク)との接続を固定します(通常は上位に表示されるESSIDと接続します)。

■ AP 検索表示の各項目

ESSID	MAC(BSSID)	信号強...	セキュリティ	CH	周波数	802.11	Super	XR
corega	XX:XX:XX:XX:XX:XX	100%	無効	6	2.437Ghz	g		
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨

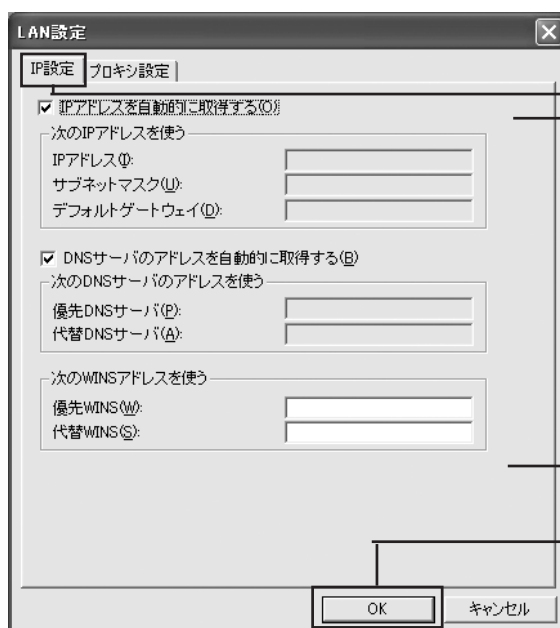
項目名	説明
① ESSID	接続状態と無線ネットワークのESSIDを確認できます。 接続可能な無線ネットワークです。(Ad-Hocモード) 現在接続している無線ネットワークです。(Ad-Hocモード) 接続可能な無線ネットワークです。(Infrastructureモード) 現在接続している無線ネットワークです。(Infrastructureモード) ※ステルス機能が設定されている場合、ESSIDは表示されません。
② MAC(BSSID)	MACアドレス(BSSID)を確認できます。
③信号強度	通信強度を0~100%の間で確認できます。
④セキュリティ	設定されているセキュリティー設定を確認できます。 セキュリティが設定されている無線ネットワーク付くマークです。 無効 .... セキュリティ設定が設定されていない無線ネットワークです。 WEP .... セキュリティ設定でWEPが設定されている無線ネットワークです。 WPA-PSK .... セキュリティ設定でWPA-PSK(パーソナル)が設定されている無線ネットワークです。 WPA-PSK .... セキュリティ設定でWPA-EAP(エンタープライズ)が設定されている無線ネットワークです。
⑤ CH	設定されているチャンネルを確認できます。
⑥周波数	無線のネットワークから発せられている電波の周波数を確認できます。
⑦ 802,11	802.11モード(通信規格)を確認できます。
⑧ Super	Super Gが設定されている場合は、 が表示されます。
⑨ XR	eXtended Rangeが設定されている場合は、 が表示されます。

本製品は「優先するアクセスポイント」に表示されたESSID(ネットワーク)の設定に対して、「IP アドレス」「プロキシ」の設定を行うことができます。(Windows XP/2000のみ)

「IP& プロキシ設定」ボタンをクリックします

■「IP 設定」画面

「IP 設定」タブをクリックします。

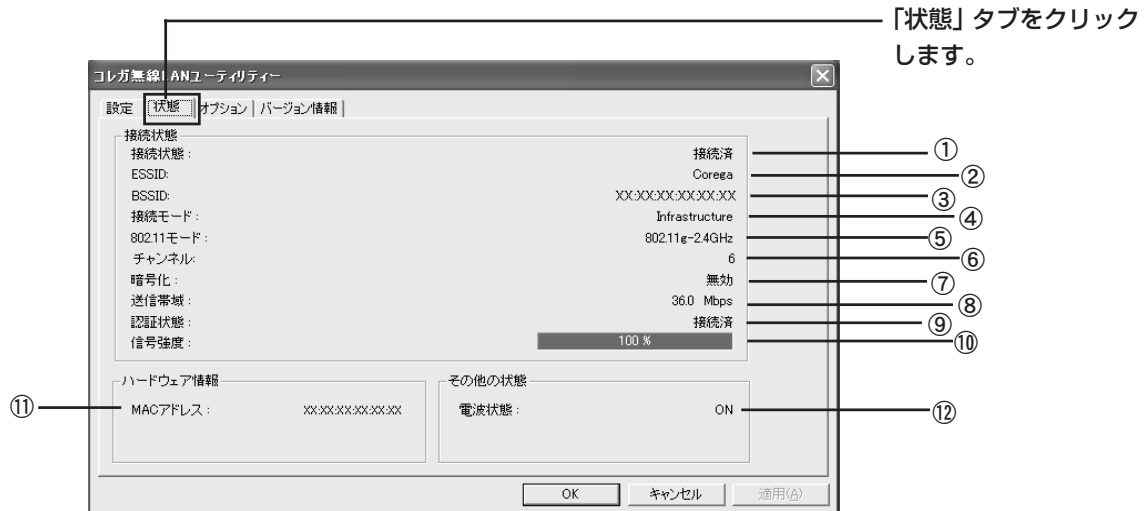
IP アドレスと DNS サーバの設定を入力してください。

■「プロキシ設定」画面

「プロキシ設定」タブをクリックします。

プロキシサーバの設定を入力してください。

「状態」画面

画面右下のタスクトレイ（通知領域）にある をダブルクリックしてユーティリティを起動してください。

「状態」タブをクリックします。

項目名	説明
①接続状態	本製品の接続状態を表示します。
② ESSID	現在設定されている ESSID を表示します。 ※工場出荷時の設定は「corega」です。
③ BSSID	接続相手機器の MAC アドレスを表示します。
④接続モード	設定されている接続モードを表示します。
⑤ 802.11 モード	現在接続されている通信規格を表示します。
⑥チャンネル	現在設定されているチャンネルを表示します。
⑦暗号化	現在設定されているセキュリティ設定を表示します。
⑧送信帯域	現在送信している送信帯域を表示します。 ※「Ad-Hoc」で使用する場合、表示される値は実際の値と異なります。
⑨認証状態	通信相手機器との接続状態を表示します。
⑩信号強度	通信相手機器との信号の強度を%で表示します。 ※「Ad-Hoc」で使用する場合、表示される値は実際の値と異なります。
⑪ MAC アドレス	本製品の MAC アドレスが表示されます。
⑫電波状態	本製品が通信可能の状態であるかを表示します。

「オプション」画面

画面右下のタスクトレイ（通知領域）にある をダブルクリックしてユーティリティを起動してください。

「オプション」タブをクリックします。

項目名	説明
①一般設定	チェックをつけると各機能が動作します。
②優先ではないESSID（ネットワーク）に自動的に接続	チェックをつけると「設定」画面（P.23）で検索されたESSID（ネットワーク）を優先順位をつけることなく接続します。
③使用する通信モード	「設定」画面でのESSID(ネットワーク）を検索するモードを設定することができます。
④電波を止める	ネットワークの接続を中断したい時にチェックを入れます。
⑤周波数帯域	本製品の通信を行う周波数帯域を設定することができます。 「802.11b－2.4GHz」、「802.11b/g－2.4GHz」、 「802.11a－5GHz」、「Auto」のいずれかから選択してください。 ※工場出荷時の設定は「Auto 」です。
⑥ Ad-Hoc 時の周波数	Ad-Hoc 時の使用する周波数を設定することができます。 「2.4GHz」、「5GHz」のいずれかから選択してください。 ※工場出荷時の設定は「2.4GHz」です。
⑦ Ad-Hoc のチャンネル	Ad-Hoc 時の使用するチャンネルを設定することができます。 「Auto」、1～14チャンネルのいずれかから選択してください。 （「周波数帯域で「802.11a－5GHz」を選択した場合は「Auto」のみになり、選択することはできません。） ※工場出荷時の設定は「Auto」です。

項目名	説明
⑧省電力モード	消費電力を抑えるよう設定できます。 「無効」「最大」「速度優先」のいずれかから選択できます。 ※工場出荷時の設定は「速度優先」です。 ※通常は設定を変更する必要はありません。
⑨送信電力	本製品の送信電力の出力を設定することができます。 「100%」「50%」「25%」「12.5%」「最小」のいずれかから選択してください。 ※工場出荷時の設定は「100%」です。 ※通常は設定を変更する必要はありません。
⑩ Super A/G	「ON」に設定すると「Super A/G」モードを搭載した無線機器と通信した時、バースト転送およびデータ圧縮を行います。これによりスループットを向上させることができます。 「OFF」「ON（圧縮）」「ON（無圧縮）」のいずれかから選択してください。 ※接続相手の機器も「Super G」または「SuperA/G」に対応し、同一設定にしている必要があります。 ※工場出荷時の設定は「ON（圧縮）」に設定してあります。
⑪ eXtended Range	「有効」にすると、通信範囲が広がり、より安定した通信を行うことができます。 ※接続相手の機器も「eXtended Range」に対応している必要があります。

「バージョン情報」画面

画面右下のタスクトレイ（通知領域）にある　をダブルクリックしてユーティリティを起動してください。

「バージョン情報」タブをクリックすると、本製品のソフトウェアの現在のバージョンが表示されます。

付録

用語集

A～

● AES(Advanced Encryption Standard)

米国商務省が暗号化標準技術として承認した暗号規格。TKIPより強固な暗号化を施すことが可能です。

● EAP(Extensible Authentication Protocol)

ユーザ認証の際に使用するプロトコルです。EAP-MD5(EAP Message Digest Algorithm 5)、EAP-TLS(EAP Transport Layer Secure)、EAP-TTLS(EAP Tunneled-TLS)などがあります。

● IEEE802.11a

無線通信規格の一つで、5.2GHzの54Mbps高速通信に対応しています。従来のIEEE802.11bとの互換性はありません。

● IEEE802.11b

無線通信規格の一つで、2.4GHzの11Mbpsの規格を持ちます。現在多くの製品に導入され普及しています。

● IEEE802.11g

無線通信規格の一つで、2.4GHzの54Mbpsの高速通信に対応しています。従来のIEEE802.11bと互換を持ちます。

● LEAP(Lightweight Extensible Authentication Protocol)

Cisco Systems 社独自の認証規格です。

● PEAP(Protected EAP)

任意で設定されたID とパスワードで認証します。Microsoft社の　PEAP-EAP-MSCHAPV2やPEAP-EAP-TLS があります。

● TKIP(Temporal Key Integrity Protocol)

一定時間ごとに暗号キーを変更する暗号化プロトコルです。

● RADIUS(Remote Authentication Dial-in User Services)

アクセスポイントと認証サーバの間で認証情報をやりとりする際に使用するプロトコル（言語）です。認証サーバを RADIUS サーバと呼ぶこともあります。

● WEP(Wired Equivalent Privacy)

ワイヤレスネットワークの標準を策定する業界団体「Wi-Fi Alliance」が提唱する暗号化規格です。無線通信のセキュリティー設定の一つで、通信内容を暗号化し、通信の解読を防ぎます。

● WPA(Wi-Fi Protected Access)

ワイヤレスネットワークの標準を策定する業界団体「Wi-Fi Alliance」が 提唱する暗号化規格です。無線のセキュリティー設定の一つで、暗号化プロトコル（TKIP）を使って通信内容を暗号化し、一定時間ごとに暗号を更新します。そのため WEP よりも解読がされにくくなります。企業内向きの WPA-EAP(エンタープライズ)と一般家庭向きの WPA-PSK(パーソナル)の二種類があります。

● WPA-EAP(WPA-Enterprise)

企業などの大規模なネットワークに適したWPA規格です。RADIUSサーバに認証キーのやりとりをする 802.1x 認証を使用し、セキュリティーを強化します。

● WPA-PSK(WPA-Pre-Shared Key)

一般家庭向きのWPA規格です。ユーザが任意で設定した認証キーに基づいて通信内容を暗号化し、TKIP を使用し、通信データの暗号化を一定時間ごとに更新します。

● 802.1x 認証

RADIUS サーバとアクセスポイントの間で接続した場合のユーザを認証する機能です。RADIUS サーバに登録された正しい認証キーでアクセスしたユーザのみアクセスの認証を行います。

あ～

●認証サーバ

企業などのローカル環境でユーザ認証をコントロールするサーバのことです。RADIUSサーバとも呼ばれます。

おことわり

・ 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
・ 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
・ 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
・ 本製品の仕様またはそのご使用により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

corega は、株式会社コレガの登録商標です。
Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

2004 年　2 月　　初版
2005 年　2 月　第四版